

独立行政法人国立病院機構  

**松江医療センター**  
**呼吸器病センター**  
 〒690-8556  
 松江市上乃木5丁目8-31  
 TEL (0852) 21-6131 FAX (0852) 27-1019  
 URL <http://www.matsue-medicalcenter.jp/>  
 発行責任者  
 院長 徳島 武  
 編集者  
 事務部長 嘉藤 一博



**出雲大社**

昨年5月10日、60年ぶりの御本殿の遷座を終えた出雲大社。平成の大遷宮を迎え大勢の観光客で賑わう中、「復活し、未来を志向する」という意味もある大遷宮に、私たちは世界平和と人々の安寧を祈りました。

**ま ぐ じ**

平成26年「新年のご挨拶」	2	「クリスマス会」	9
教育研修部から - 未完成の教育研修部が学びたい「半沢直樹」の仕事観と組織論 -	3	「社会見学代替院内行事」(2階、3階病棟)	10
「第4回松江呼吸器セミナー」を開催して	4	クリスマスコンサートを開催して	10
QC活動で優秀賞を取ったどおおおお～	5	第7回地域医療連携交流会	11
新人看護師リフレッシュ研修を終えて	6	地域連携室だより	12～13
"健幸スマイル教室" 好評です	7	開業医紹介コーナー	14
秋の夜長コンサートを開催して	8	しじみ会 (十月中秋号 十一月晩秋号 十二月冬号)	14
ケーススタディー発表でポスター賞をいただきました	8	外来管理診療棟オープン	15
平成25年度 高校生インターシップ	9	外来診療表	16

**基本理念** 私たちは、真心と思いやりをもって良質な医療を提供します。



# 平成26年「新年のご挨拶」

院 長 徳 島 武

新年あけましておめでとうございます。皆様にはそれぞれの希望や意欲を心に秘めて、新しい年をお迎えになったことと拝察いたします。例年になく長い年末・年始の休暇中にもかかわらず、勤務に当たられた多くの職員の方々には大変ご苦労様でした。今年も皆さんの益々のご健勝をお祈りしたいと思います。

さて昨年は国内外の政治・経済・外交等、いずれも暗い閉塞感から抜け出せない状況の中で、2020年の東京オリンピック開催決定や富士山の世界遺産登録、60年ぶりの出雲大社の大遷宮などが明るいニュースでした。

今年はいったいどんな年になるのでしょうか？日本はこれまで経験したことのない超高齢者社会を乗り切るために、医療・介護をはじめとする社会保障を最優先課題として取り組まなければならない。「それは今でしょう！」と痛感するのですが、安倍政権は財政再建、デフレ脱却をなにより最優先にして、この社会保障充実・強化に取り組む姿勢が一向に見えません。消費税増税やTPP問題にしても病院経営には大きな影響を与えます。今後8%、10%と増税されれば、病院は「控除対象外消費税」いわゆる「損税」のため、大きな赤字を背負うこととなります。TPP参加も営利企業が医療分野に参入し、混合診療が解禁となり、現在の国民皆保険は崩れていきます。時代は大きく転回しつつあります。年明け早々から安倍政権の手腕が問われています。しっかりと日本の将来を見据えた政策を早く国民に示してほしいものです。

さてこうした中、当院は今年大きな転換期を迎えました。昨年12月に念願の新病院（外来管理診療棟）が完成しました。新病棟完成が平成21年7月でしたから、それから約4年半かかりました。これで当院の建替工事はすべて完了し、従来の旧療養所から名実ともに新たな「松江医療センター」に生まれ変わります。1月19日に完成記念式典と見学会を開催し、1月末に引っ越し作業を行い、2月3日から運用を開始します（外来等スタート）。同時に電子カルテを導入し、高額医療機器（MRI, RIシンチ、放射線撮影装置等）の更新や、胸腔鏡手術専用室の新設などを行ってまいります。

そして松江医療センターの、地域の中で果たすべき

役割や機能を見直し、これからの当院の進むべき道を的確に見据え、経営の安定を図り、国民医療・地域医療の向上に貢献する「礎」の年にしていかなければなりません。

そこで私はこの新棟完成にあたって、次の5つのコンセプトを掲げました。

1. 地域医療への貢献と連携
2. 呼吸器救急医療体制の強化
3. 高度医療に対応した最新医療システムの導入
4. 政策医療の堅持・推進
5. 患者さんに優しく、職員が働きやすい病院

1. 当院の診療機能は、呼吸器を中心とする一般急性期医療と、医療と障がい福祉の両面を併せ持つ神経難病、筋ジストロフィー医療、重症心身障がい医療に大別されます。一般医療については、肺がん、肺気腫、気管支喘息、呼吸不全などの呼吸器疾患の診療を主体としており、山陰地方の呼吸器病院の中心的存在であり、平成17年には呼吸器病センターを設立し機能強化に努めています。これらの特化した当院の機能を地域医療の中で発揮し、地域の医療機関との連携を密にして、住民の皆さんの健康維持に貢献したいと思えます。

2. 従来より当院では、呼吸器疾患に対しては24時間救急体制を取り、救急患者さんの診療・受入れを行っていますが、昨今の松江医療圏での救急医療体制が厳しい状況の中、呼吸器救急体制をより一層強化していきたいと考えています。

3. また「ヘリカルCTによる肺がん検診」も県内初で15年前から取り組み、早期肺がんの発見に努めています。このたび更新したMRI等も最大限活用していきたいと思っています。また導入した電子カルテを利用して、将来は島根医療情報ネットワークである「まめネット」に参加して、医療機関同士でITを活用した情報連携を行う予定です。

4. また結核、神経難病、筋ジス、重症心身障がい医

療は、国立病院機構の使命であり、当院は県内の拠点病院として指導的立場で診療しており、これまで数多くの患者さんに治療・療育の場を提供してきました。今後もさらに積極的に社会のセーフティーネットとしての役割を果たしていきます。

5. 今回建物整備や医療機器の更新等、ハード面を充実させることで、患者さんに満足していただける療養環境を整備することができました。同時にソフト面でも医師・看護師不足の厳しい山陰地方にあって、さらなる人材の獲得増員をめざしています。そして職員が生きがいを持って仕事に専念できる職場環境を作りたいと考えています。2月末には新しい看護師宿

舎も完成します。

また園児数増に対応するための増築工事中です。

職員一人ひとりが、病院の理念である「真心と思いやり」のこころを持って患者さんに接し、これからも時代に即した高度で良質な医療・看護・療育を提供するよう取り組む覚悟です。そして地域との連携を更に深め、地域の皆さんや患者さんの期待に応えるべく、診療内容の充実発展に努力してまいります。

どうか皆様には今後一層のご支援ご尽力を宜しくお願い申し上げます。私の年頭の挨拶と致します。本年もどうかよろしくお祈り致します

## 教 育 研 修 部 か ら

### 未完成の教育研修部が学びたい『半沢直樹』の仕事観と組織論

呼吸器内科医長・教育研修部長 門 脇 徹

「倍返しだ！」の流行語を生み出したドラマ『半沢直樹』。劇中では敵対する上司に対する攻撃的かつnegativeなイメージを持つ言葉ですが、私は好きな言葉の一つになっています。「倍返し」できるのは実力があるからであり、それに向かってエネルギーを費やせる根性があるからです。だから見ていてスッキリするのでしょうか。「倍返し」の面白さは言うまでもありませんが、当院の教育部門を担当している私が『半沢直樹』に学ぶのは、仕事と組織のあり方です。

ドラマは半沢直樹が東京セントラル証券への出向を命じられる場面で終わります。その続きが「ロスジェネの逆襲」(ダイヤモンド社)。その中で半沢は部下に対してこう言います。

「仕事は客のためにするもんだ。ひいては世の中のためにする。」

気がつけば、忙しさにかまけて重要なことを忘れてちになってしまっていないでしょうか？忘れてはいけない重要なこと、とはあくまで我々の仕事は患者さん・ご家族のofferに真摯に答えていく、ということなのです。そのためには日常業務を淡々とこなすことだけではなく、日々進歩する知識・技術をひたすらに得続けなければならないのです。忙しいから勉強できない、というのは体のいいexcuseです。忙しいからこそ、勉強し続けることがprofessionalである我々に求められているのです。教育研修部が職員の皆さんに

貢献できるポイントは正にそこにあります。

去るH25年11月8日～9日金沢にて第67回国立病院総合医学会が開催されました。H23年11月に現在の形となった教育研修部としての初年度(H24年度)の活動報告を『「教育研修部」がもたらすもの～初年度の報告～』と題して口演発表し、ベスト口演賞をいただきました(写真)。教育研修部の発表としては2年連続の受賞です。当院教育研修部が他院で見受けられる下記状況(1-3)をクリアできている点が評価されたものと自己分析しています。

1. 他院でもこのような組織設立ニーズはあるものの実際に組織をつくるまで話が“進まない”。
2. 「教育研修部」的教育部門は持っているが、実態がないもしくは一部の部門(看護部)でしか“運用できていない”
3. 全体教育に医師が“関わっていない”

当院の教育部門はまず有志による呼吸器疾患勉強会であった「みどりの会」から始まりました。H21年4月から病院内の組織として「医療教育研修室」を立ち上げ、「医療教育研修室」の問題点をクリアする形で大きな組織として教育研修部と成長してきました。当院教育研修部の誇るべき点は様々な職種がその活動に関わっている点です。全体運営や方向性の意思決定等についてはトロイカ体制的トップダウン方式で行っています。ここで重要なことは意見が偏らないように

配慮している点です。また院外部門以外の3部門ではそれぞれの部門ごとにミーティングを開いて、多職種からの意見を反映させ、ボトムアップが可能なシステムにしています。現時点ではこの4部門構成と双方向的な運営が功を奏していると考えています。それも教育研修部の構成メンバーの皆さんが、それぞれの立場や関わり方で尽力していただいているおかげです。

しかし、先ほどの半沢の言葉の続きにより、それで安心してはダメだということに気づかされます。

「その大原則（＝仕事は客のためにするもんだ。ひいては世の中のためにする。）を忘れたとき、人は自分のためだけに仕事をするようになる。自分のためにした仕事は内向きで、卑屈で、身勝手な都合で醜く歪んでいく。そういう連中が増えれば、当然組織も腐っていく。組織が腐れば、世の中も腐る。わかるか？」後半の“組織も腐っていく…”の下りが私の心にグサリと刺さりました。現時点での教育研修部の組織構成（図参照）で最近満足している自分がいるからです。今は、おそらくbestに近いでしょう。ただ、数年後には今の体制では満足できる状態ではなくなっている可能性があります。なぜならメンバーは固定ではなく常に動きます。院内の情勢も都度変わっていくでしょう。現在のメンバーでbestと思うのは今だけなのです。しかも今はまだ個に依存する組織。仮に今のメンバーが総替えになったとしても機能する組織にするのが私の仕事であったはず…。順調に機能している今だ

からこそ慢心があったと、皮肉ですがベスト口演賞をいただいた後に気づき、猛省しました。

ではどうすればいいか？メンバーが入れ替わったとしても継続して教育研修部の力を発揮するには常に形態を変えながら、組織自体成長をし続けることをやめたいいけない、ということです。教育研修部は教育研修部のためにだけ仕事をしてはいけません。教育研修部の提供する教育研修を通して職員が成長できるように、そしてその延長線上にいる患者さんやご家族がhappyになれるような仕事をしないといけないのです。

ここまできたので最後も半沢の言葉で締めくくりましょう。

「サラリーマンは— いや、サラリーマンだけじゃなくてすべての働く人は、自分を必要とされる場所において、そこで活躍するのが一番幸せなんだ。会社の大小なんて関係がない。知名度も。オレたちが追求すべきは看板じゃなく、中身だ」

そのときのbestの答えを模索しながら、教育研修部は成長し続けたいと思います。



## 「第4回松江呼吸器セミナー」を開催して

教育研修部副部長 山本純子

平成25年12月7日（土）に松江テルサにて第4回松江呼吸器セミナーを開催いたしました。

当院は、呼吸器病センターとしての専門性を生かし、地域の医療従事者の方々を対象とした松江呼吸器セミナーを、平成22年から開催しています。第1回目は「排痰のコツ教えます」、第2回目は、「誤嚥性肺炎対策のキーポイント」、第3回目は「結核集団感染を考える」というテーマで、呼吸器疾患の対策における問題をとりあげてきました。そして今年「Tailor-made（テーラーメイド）NPPV～チームアプローチによるNPPVの理想形」というテーマで開催いたしました。

『知識・技術を総動員し、チームワークで快適性と予後改善を追究するNPPV』をコンセプトに、多職種のスタッフが関わっている院内でのRST活動や、進化するNPPVの管理について、下記のように3名の方々に、それぞれの立場から、講演していただきました。

① 「RSTからみえるTailor-made NPPVのカタチ」

慢性呼吸器疾患看護認定看護師・呼吸療法認定士 勝田 聖子

② 「臨床工学技士が支えるTailor-made NPPV」

主任臨床工学技士 笠置 龍司

③ 「Tailor-made NPPV～快適性と予後の改善を追究する～」

呼吸器内科医長・教育研修部長 門脇 徹

このセミナーは、今回より「3学会合同呼吸療法認定士の認定更新に必要な点数取得可能な講習会」として認められ、呼吸療法認定士をこれから目指す方、すでに資格を持っている方にとっては、受講により12.5点が取得可能となりました。当日の参加人数は138名で、中国管内の他、九州や四国からもお越しいただきました。

閉会のご挨拶で、統括診療部長の池田先生が述べられたように、このセミナーによって、患者さん一人ひとりに対するきめ細やかな対応ができることで、呼吸器セミナーご案内ポスターのように、パズルのピースが1枚でもぴったりとはまっていくことを願っています。

ご講演いただきました3名の演者の皆様、本当にありがとうございました。また、準備、運営にご協力いただきました職員の皆様に心から感謝いたします。



## QC活動で優秀賞を取ったどおおお～

手術室中材 看護師 西垣孝子

QC活動で優秀賞をいただきました。素敵な賞状です。写真をご覧ください。

きっかけは昨年ガストで食事をしていたところ、隣のテーブルで若い夫婦がセールスマン風の方から、i-padを使ってなにやら商談のようなことを受けていました。聞こえてくるのは家の新築に関してらしく、i-padを巧みに使いながら画像を見せ、若い夫婦は熱心に聞き入っていたように思います。その時、「ああ～うちもi-padで手術説明がしたい!」と思ったのです。

時を同じくして看護研究の順番が回ってきたので、手術説明にi-padが使えないだろうか？と提案したところ、どうやって調達するか？予算的に無理!と言われたけど、あきらめきれず、doctorsがいる時に「i-padが手に入らないかなあ」とつぶやいたところ、院長が「使ってないのがあるからどうぞ」と気前よく貸して下さいました。(声に出してみるものです…笑)

i-pad使用の手術説明はネットで検索してみてもまだそれほど普及してなく、早速研究テーマとして決定し、目次先生にも協力していただき説明画像が完成しました。i-padを使用した手術説明のアンケート結果はとても好評でした。そこでさらに画像を分かりやすいものに順次更新していきました。現在も手術室スタッフ全員がわかりやすい手術説明を実践しています。

今年4月、i-padを使用した手術説明を「QC活動」に出そうと師長命令が下り、手直しを

加え7月に応募したところ、なんと優秀賞を頂きました。授賞式は東京の機構本部で10月23日！誠に残念なことに私め、丁度この時、腰を痛めヘルニアの手術のため病休中の出来事でした。急遽、一緒に取り組んだ本間師長と安食さんが代理で行って下さり、桐野理事長から立派な賞状を頂くことが出来ました。授賞式のあと各県の受賞者の方々とのお話があり、その席でも興味を持って頂き、たくさん質問を受けたと伝え聞きました。

QC活動 (Quality control) とは、「品質管理」の手法を用いて具体的な業務課題に取り組み、その品質の適正保持・効率化・改善などの対策を考え実践する活動のことをいいます。早い話が業務改善をカッコ良く言ったって感じです。今、自分たちがしていることや職場を、こうしたらいいんじゃない？ああしたらどうか？と思ったことを実践するだけです。皆さんもドンドン参加してはいかがでしょうか？最後にi-padを提供していただいた院長先生はじめ、御協力いただいた皆様に感謝です。ありがとうございました。



## 新人看護師リフレッシュ研修を終えて



5階病棟 看護師  
**鐵池 恭 弥**

4月から働き始め、あっという間に約半年が過ぎました。

今回私たちは9月30日と10月1日の2日間、星上山へ行きリフレッシュ研修を行いました。久しぶりの同期との集まりや、各グループに分かれてカレーを作り、ビンゴゲームなどを行いました。日頃の緊張感や不安を忘れ、心から楽しく過ごすことができました。そして先輩看護師の出し物の中には、病院中の皆さんからのビデオレターがありました。“これから一緒に頑張ろう” “成長出来ている” というメッセージは、大きな安心感や、これからも頑張ろうという励みになり、とても嬉しかったです。

夜には星上山ということもあり友と星と一緒に見ました。星を見ているときに頭の上に栗が落ちてくるというハプニングもありました。またログハウスでは、みんなが身動きがとれなくなるくらいギュウギュウで寝ました。まるで高校生の修学旅行のようで、とても良い思い出になりました。

たくさんの緊張や不安の中で半年が過ぎましたが、今回の同期との学びの共有や支え、先輩看護師や病院中の皆さんの支えを胸に、これからも一生懸命頑張っていきたいと思っておりますので今後ともよろしくお祈りします。



“夜はみんなで楽しく交流”

### 教育研修担当看護師長 **山本 純子**

9月30日、10月1日の2日間、八雲町にある星上山スターパークで新人看護師21名が6ヶ月目の研修を行いました。院外でのリフレッシュ研修は今年が初めての試みでした。半年を振り返り、新人同士の想いを共有して、気持ち新たにこの時期を乗り越えるために、リフレッシュするには職場を離れた院外でと、人里離れた山頂を選びました。ですが、山頂にたどり着くまでの道幅は想像以上に狭く、道の片側は崖というところもあって、あいにくの雨の中、転落事故が起きないことを願っていました。夕食時に駆けつけて下さる予定の看護部長を待っている間は、崖から落ちられてはいないかと本気で心配しました。当日は曇り空で、夜には雲の合間をぬって見える星座は、とても明るくきれいで、山頂から見る松江市内の夜景も、とても美しかったです。

さて、研修のほうは、午後病院を出発して、班ごとにバンガローに分かれたあと、バーベキューハウスで夕飯の準備を始めました。新人看護師の期待に反して、夕食はバーベキューではなくカレーライスを大きな鍋で作ったのですが、カレールウを入れてから、「まだじゃがいもが固くて…」とか、人参を切る手にハラハラする場面もありましたが、完成したカレーライスはとてもおいしかったです。

夕食会の最後に、院長、副院長はじめ各病棟、各部門、医事課ニチイ職員さん、売店職員、清掃職員の方がた、皆さんからのメッセージが詰まったビデオレターを流しました。研修後のアンケートでは、研修の内容で良かった項目は、“ビデオレター”と全員が答えて

おり、病院職員みなさんに支えられていることを再確認出来たようです。ビデオレターの撮影にあたっては、看護部長がビデオカメラを肩にかけた私をひき連れて、病棟以外の部署に突撃レポーターのように、事前のアポなしで進入したにもかかわらず、皆さんが快く受けて下さり、即興のメッセージを寄せて下さって、感激しました。また、療育指導室の方にはお忙しい中、編集を引き受けてくださったおかげで、病院の職員みんなが新人看護師を見守っているということを伝えることができました。

新人同士で集まって、ゆっくりと話をする機会となり、他部署の新人看護師の様子や、日頃あまり話さない新人看護師の、知らなかった部分を改めて知る事ができたようです。「夜虫が出た。」「布団が固くて眠れなかった。」と楽しいことばかりではなかったようですが、今後つまずいた時、今回の研修で語り合ったことや、バンガローでせんべい布団を敷き詰めて寝たこと、楽しい時、辛い時を一緒に過ごした仲間がいるということを思い出していただければと思います。

ビデオレターで、メッセージをくださった皆様、すでに戦力となりつつある新人看護師を全員研修に送り出して、少ない人数で病棟を守ってくださったスタッフの皆様、ご協力いただいたすべての皆様に心より感謝いたします。



星上山スターパークのバンガロー



研修会

# "健幸スマイル教室" 好評です

看護部長 坪 嶋 美恵子

松江医療センター看護部は、平成24年看護広報委員会を立ち上げました。この委員会の目的は、看護部の活動を院内外に向けてアピールすることです。活動内容は、看護の日の行事をはじめ、季節のコンサートなど各種イベントの取り組みや、看護学生の体験学習・看護師募集活動など多岐にわたっています。毎年これらの目的達成に向け活動を行い、徐々に成果を上げてきました。

今回、看護広報委員会活動の一つとして取り組んでいる"健幸スマイル教室"について紹介したいと思います。昨年"健康教室"としてスタートしましたが、今年度から名前を改め"健幸スマイル教室"としました。この教室は毎月第3月曜日、15時～15時30分の30分間、看護部が企画し行いますが、様々なテーマで他部門の方々にも講師をお願いし、力を借りながら開催しています。当院の一般診療は、呼吸器疾患を主体にしていますが、患者さんは高齢化し呼吸器疾患と共に、様々な疾患も合併され、薬の量と数も増えています。また高齢患者さんの中には退院後も一人で生活される方もいて、退院後の食生活への不安もあります。日頃足腰に不安は無いと自信を持っていても、気づかない老化現象と慣れない入院環境で転倒される事もあります。入院中には退屈な時間を過ごされる方

もいます。そこでわずかな時間を利用し、日々の日常生活を元気に過ごしていただきたいと言う思いを込めて、健康維持に向けて様々な知恵と知識をレクチャーし、楽しく勉強していただく事を考えました。

今までに行った内容は「お薬と上手につきあう方法」「呼吸体操をマスターしよう」「肩こりのすべて」「安全におしく食べるために」「食事で夏ばて予防」「食事で免疫力アップ」「風邪予防」「手洗い体験」「禁煙のすすめ」「転ばぬ知恵」等々です。

"健幸スマイル教室"を開催し約一年が経過しましたが、毎回20名前後の方に参加していただいています。何より嬉しいことは、患者さんから質問も多く、とても好評をいただいていることです。入退院を繰り返されている患者さんの中には、この教室を楽しみに回数を重ねて参加していただいている方もいます。また30分間ですが、和やかな雰囲気の中で開催され、職員と患者さんの親近感が生まれています。このことは入院生活を過ごしていただく上で医療者と患者の双方にとって功を奏しています。

患者さんが健康を維持し、楽しく幸せに過ごしていただくために、これからもこの"健幸スマイル教室"は更に内容を充実させながら継続していきたいと考えています。



## 秋の夜長コンサートを開催して

看護師 昌子 あや

秋の夜長コンサートを10月9日（水）、5階病棟デイルームで開催しました。この会は、「秋の夜長を心地よく休んでいただく為に、楽しい午後のひと時を過ごして頂きたい」という思いを込めて企画しました。

KTTメンバー（代表の宮崎さんら4名）の演奏と歌により、患者さんやご家族の方など約70名に参加していただき、盛大に開催することができました。

坪嶋看護部長の挨拶にはじまり、「きよしのずんどこ節・涙そうそう・南の島のハメハメハ・小さい秋見つけた・世界に一つだけの花・夕焼け小焼け・ふるさと・NHKあまちゃんのテーマ」などを演奏や独唱、みんなで合唱も行いました。

当日、私は司会を担当しましたが、ボーカルの宮崎さんに引き込まれるように進行していきました。ギターやサックス、配られていたスティックを振ったりと会場全体が盛り上がり、楽しいひと時を一緒に過ごすことができ、私の緊張もいっきにほぐれました。

普段はベッドで休んでいらっしゃる患者さんも参加してくださいました。ご夫婦で歌詞を指でなぞりながら歌っておられる姿もありました。参加していただいた皆さんの笑顔が溢れていたことを大変うれしく思いました。重症心身障害児（者）病棟のAさんとお母さ

んは何時も参加して下さっていますが、Aさんは水川きよしの大ファンなので「きよしのずんどこ節」など、大いに楽しんでいただけたのではないかと思います。また、とりわけ「あまちゃんのテーマ」は速いテンポでサックスの音色を楽しませていただきました。

KTTメンバーの皆さまは、他の病棟での演奏も決まっており、患者さんから握手を求められるなど人気のあるグループです。今後ともよろしくおねがい致します。

主催の「看護広報委員会」は、今後も楽しいコンサートの開催や健康へのサポートなどをしていきたいと考えています。ご意見やご希望を遠慮なくお寄せ下さい。お待ちしております。



## ケーススタディー発表でポスター賞をいただきました

4階病棟 看護師 金坂 優子

私は、今回2年目看護師研修のケーススタディー発表において、「高齢結核患者の自尊心を尊重した服薬指導」をテーマとし、発表しました。そして、栄誉あるポスター賞を受賞しました。

事例の患者さんは、「今までこのやり方でやってきたので、このやり方でできるようになりたいです。」など、服薬管理に対して強い思いや、こだわりがあることが分かりました。患者さんとの関わりを通して、こちらの考えを押し付けず、患者さんと一つひとつ相談しながら、段階を経て自己管理にもっていくことの重要性を学びました。文献でも、看護師は高齢者の衰えばかりに目が行きやすい。高齢者は長年生きてきた誇りや自信を持っているため、自尊心の尊重が何よりも大切な支えである。と述べられていました。ケーススタディーを進めるにあたり、チーム全体で私のやりたい看護を応援し、継続した関わりをしてくださいました。また、まとめるにあたっては師長さんや先輩看

護師さんから、ケースからの学びを引き出していただきました。

また、幸運にもケース発表の前日は、門脇先生の「パワーポイントによるプレゼン上達への道」の研修があり参加しました。この研修を受けたことでポスターの内容を急遽整え、レベルの高いポスターをプレゼンすることができました。このように皆様に支えられてポスター賞をいただけたと思います。

私も来年3年目看護師になります。後輩に指導していけるように、日々成長していきたいと思

います。



ポスター賞



# 平成25年度 高校生インターシップ。平成25年10月8日(火)～10月11日(金)

副看護部長 坂本 節子

台風24号の直撃で、2日目の9日は休校となり今年は3日間の研修期間になりました。新人看護師から看護学校に入学してからの生活の事や、看護師になったの感想を聴きました。ベテラン看護師からは「命の尊さ」について、現場での事例を聴き、高校生5人は看護師としてのやりがいを新たに感じたと話してくれました。

現場での体験を通して、今後の進路選択の参考になり、看護の道に進んでくれることを期待したいと思います。ちなみに昨年度参加してくれた学生も看護学校に進学してくれました。当院の奨学金を受けている学生もいます。将来が楽しみです。



2日目(10/9)は台風の為休校でした



新人看護師のようです



やっぱり。看護師っていいな...



## 「クリスマス会」

療育指導室室長 峯石 裕之

1～3階病棟とデイケア「虹」では12月にそれぞれに趣向を凝らしたクリスマス会を行いました。1階病棟では、ボランティアグループKTTさんを招いてのコンサート。ベットサイドに訪問して、昭和歌謡やクリスマスソングで多くの患者さんに喜んでいただきました。2階病棟では患者さんを中心にしたプログラム。午前ベッドサイドにサンタクロースがプレゼントを届け、午後からは患者さんの演奏する曲に乗って手作りツリーを完成させるアトラクション、「サンタクロースの都市伝説」、きれいな女性に変身してカラオケ、「恋するフォーチュンクッキー」のダンスなど、盛りだくさんの内容でした。3階病棟でもKTTさんを招いて、コンサート。素敵な演奏を聴いたり、クリスマスソングを患者さんやご家族と一緒に歌っていただきました。サンタクロースはそれぞれの名前を呼んでプレゼントを届けてくださいました。デイケア「虹」ではサンタクロースの登場に、目をパチクリさせ歓声が上がりました。プレゼントをもらってはにっこり笑顔が見られました。途中から県立短大のボランティアさんも来られ、歌や演奏をプレゼントして下さいました。どこの病棟でも、皆さん笑顔いっぱい楽しい時間を過ごされました。



## 「社会見学代替院内行事」(2階、3階病棟)

保育士 橋本 由美子

11月14日(木)に社会見学に参加できなかった患者さんに、療育指導室スタッフによるパンフルート演奏と歌を聴いて頂きました。パンフルートとは竹で作られた楽器で、その音色はとても優しく、人の心を揺さぶることが出来る楽器です。その楽器を指導室スタッフがチャレンジしました。一音ずつ担当し、「ふるさと」を聴いていただきました。みなさん、穏やかな表情で聞き入ってくださいました。最後にみんなで「夕焼け小焼け」「紅葉」を歌い、秋を感じていただきました。



## クリスマスコンサートを開催して

4階病棟 看護師 稲田 里美

12月19日木曜日14時から5階病棟のデイルームにて、少し早いクリスマスコンサートを行いました。当日は、2・3階病棟もクリスマス会があり、外来・4階・5階・10病棟の患者さん、ご家族の方約30名の参加となりました。

クリスマスコンサートは、坪嶋看護部長の開会挨拶から5階病棟看護助手の寺川さんによるピアノ演奏でスタートしました。「ホワイトクリスマス・星に願いを・サンタが街にやってくる」の3曲です。途中でサンタに扮する徳島院長先生が登場し、当たり付のティッシュを配られました。当たりの入っていた方には、豪華!?賞品が贈呈され、喜んでおられました。次に、5階病棟有志によりハンドベルの「きらきら星・きよしこの夜」の演奏でした。数日前から練習した成果があり、息の合った演奏とハンドベルの透きとおる音色がデイルームに響きわたり癒されました。次に、看護広報委員結成による聖歌隊と看護師長会有志による合唱です。「ジングルベル・赤鼻のトナカイ・きよしこの夜」の3曲を患者さんにも歌詞カードを配り、一緒に歌っていただきました。コンサート終了後、聖歌隊は、リクエストのあった病室へ、歌を届けました。職員もサンタの衣装やトナカイの衣装を着て、すっかりサンタやトナカイになりきり、患者さんには、クリスマスの気分を味わっていただけたのではないのでしょうか。

参加していただいた患者さんからは、「クリスマスは病院で過ごさなくちゃいけないから、落ち込んでいたけど今日は楽しかったわ。ありがとう」等のお言葉をいただき、私たちも嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

ご参加下さいました患者さんご家族の皆さんに感謝します。そして、出演して下さった5階病棟有志のみなさん、ピアノ演奏の寺川さん、看護師長会有志のみなさん、また、会場準備を始め、運営にご協力して下さったみなさんのご協力のおかげで成功することができたことに感謝いたします。

来年は、新外来診療棟も開棟します。新しい場所でコンサートを計画中ですので、今後もご参加お待ちしております。



## 第7回地域医療連携交流会

地域医療連携係長 山崎 みどり

平成25年10月10日、ホテル松江東急インにて第7回地域医療交流会を開催いたしました。医師会の先生方37名に御出席をいただき、職員44名の参加を含め合計81名の参加となりました。また、二世代に渡って御参加いただいた先生もあり大変嬉しく思いました。今年は、開始30分前に、総合診療棟の建築状況をスライドで上映し、何時もより会話に花が咲いたように感じました。

最初に、徳島院長より日頃より格別のご支援いただいている事に厚くお礼を申し上げ、また、新病院の5つのコンセプト「1.地域医療への貢献と連携 2.呼吸器救急医療体制の強化 3.高度医療に対応した最新システムの導入 4.患者さんに優しく、働きやすい病院 5.政策医療の堅持・推進」の発表がありました。

次に、島根県医師会副会長の湯原先生や松江市医師会長森本先生より、今後の松江市の医療への示唆や当院への発展及び激励の挨拶をいただきました。

池田統括診療部長より乾杯の発声で懇親会を開演致しました。懇親会では、松江医療センター各診療科の最新の取組みを神経内科・足立臨床研究部長、小児科・板村医師、呼吸器外科・目次外科医長、呼吸器内科・神田医長が報告しました。また、当院の新しい4名の医師、西川医師・岩本医師・板村医師・窪内医師および新任の経営企画室長、地域医療連携係長が挨拶致し

ました。ご会食中のなか、しばし手を止めていただき盛大な拍手もいただきました。懇親会後半では、浅野博雄先生・白根一先生・小竹原良雄先生・勝部晋先生より御挨拶をいただきました。日頃より、患者さんの紹介に対してスムーズに受け入れていることについてお褒めの言葉や呼吸器病センターとして頼りにして下さっていること等、嬉しいお言葉をいただきました。お褒めの言葉に恥じないように、私達地域医療連携室メンバー、一丸となり、先生方からのご紹介に対して「迅速・丁寧」をモットーとして、頑張っていく決意を新たに致しました。また、松江圏でも「まめネット」が開始され、益々、地域医療連携が重要となることを実感いたしました。

最後に、矢野副院長より交流会へのご出席の御礼と今後ご期待に添うよう邁進していくことを宣言し会の結びの挨拶となりました。

最後になりましたが、この場をお借りして、日頃、行き届かなくご迷惑をおかけしている事に対しお詫びし、寛大に受け止めていただいている事に感謝致します。

来年度は、ご協力いただきましたアンケートのご意見をもとに、最新の医療などもご紹介出来るよう工夫していきたいと思っております。

御参加して下さいましたすべての先生がたに深く感謝致します。



# 地域医療連携室だより 第15号



2014年1月

## 日本医療マネジメント学会 第12回島根支部学術集会に参加して

社会福祉士 松本昌広

今年のテーマは、「医療連携と地域内完結」～3次2次1次医療及び福祉事業との連携について～でした。特別講演、ポスター発表、ランチョンセミナー、シンポジウムがあり、「地域連携」の категорияでポスター発表をさせていただきました。

ポスター発表は、「NPPV（非侵襲的陽圧換気療法）患者の退院支援について」と題し、10分間の発表でした。

松江圏域において、NPPV患者を長期に受け入れ可能か、療養病床のある病院：8施設、介護保険施設や有料老人ホームなどの入所型介護施設24施設に、口頭、電話などで調査したものを発表しました。その概要は長期療養受け入れ可能な施設は、病院、入所型介護施設ともに各1施設で、患者数は病院1名（1年間は待期期間はある）、入所型介護施設3名までなら受け入れ可能という状況でした。（病状・ADL、人工呼吸器の機種などによる応相談の施設は除く。）

調査の回答では受け入れが難しい理由として、①人工呼吸器の管理について知識・技術・人員が不足している、②夜勤の看護師が少ない、看護師がいない、③②に対応するためには人件費上難しい、という回答が共通していました。この内、①については呼吸器病センターである当院から情報発信をしていく事が有効ではないかと考えています。調査対象の施設のカバー率は、病院は100%、入所型介護施設は行政のホームページの情報などから確認できる80施設程度から計算すると30%超になり、それなりに松江圏域の現状を表しているのではないかと思います。

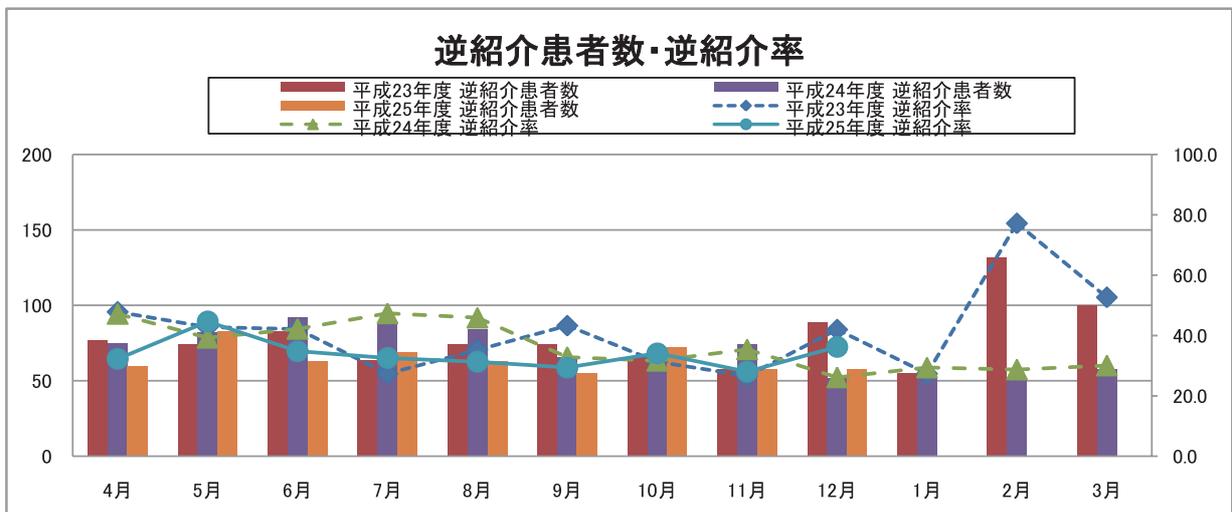
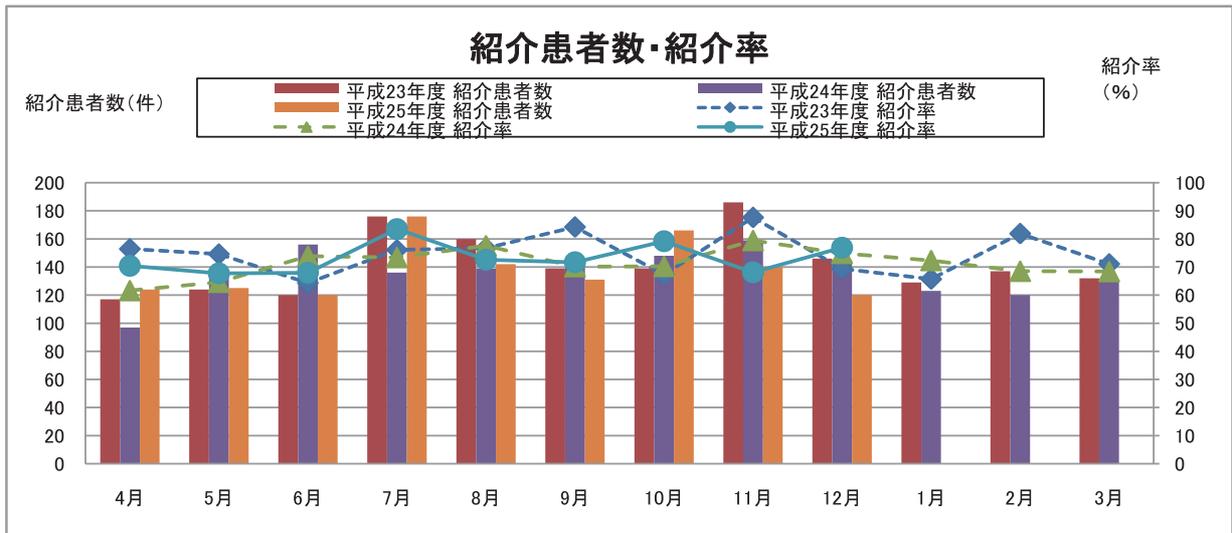
特別講演では、佐賀県・香川県では全県規模で運用されている【疾病管理MAP】について話があり、県内の疾病ごとの患者のデータをEXCELなどの汎用ソフトで構築した、【疾病管理MAP】にまとめる事で糖尿病の重症化予防の先進的な取り組みの紹介がありました。地域連携パスは「個人」の疾病管理の最適化。疾病管理MAPは「集団」の疾病管理、介入優先度の高い患者のトリアージとも話されていました。又、「技術移転が絶対必要、技術移転なしに医療連携は成り立たない、これが連携の本質、紹介状を書いて終わりではない」などの話がありました。

NPPV患者の長期療養の場所は自宅以外ほとんどない状況ですが、入所型介護施設から「受け入れは可能。ケースごとに相談して行きたい」という言葉を頂く事が増えてきた様に思います。入所にはまだ壁がありますが、療養病院への転院も難しい状況からも大変な吉報とと思います。地域包括ケアが進む中、今後もこの吉報を待望しています。





1. 紹介患者数・紹介率／逆紹介患者数・逆紹介率の推移



2. 退院支援データ

毎週対象病棟で退院支援カンファレンスを実施しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
退院支援患者 退院先	41人	46人	34人	40人	44人	37人	34人	39人	40人			
在宅	3人	10人	7人	10人	10人	6人	13人	5人	16人			
施設	7人	0人	1人	0人	1人	4人	1人	0人	1人			
病院	3人	1人	4人	2人	5人	5人	4人	5人	5人			



# 外来管理診療棟オープン

## 平成26年 2月3日(月)



プロムナード



外来受付



病院玄関



ホットコーナー



総合受付



外来診療表

お気軽にご相談下さい

平成26年2月1日現在

診療科	日	月	火	水	木	金	専門領域
呼吸器内科	神田	小林	木村	門脇	池田		<b>【呼吸器内科】</b> 矢野 修一 池田 敏和 小林賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 神田 響 多田 光宏 岩本 信一 西川恵美子  <b>【副院長】</b> 呼吸器一般（肺循環・肺がん・結核他） <b>【統括診療部長】</b> 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般  <b>【神経内科】</b> 足立 芳樹 下山 良二  <b>【院長】</b> 呼吸器外科・胸腔鏡下手術（肺癌・自然気胸他） 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科  <b>【小児科】</b> 齋田 泰子 久保田智香 細田 千佳 板村 真司  重症心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害・重度心身障害  一般小児科
	多田	神田	岩本	西川	木村		
	矢野	門脇	池田	矢野	小林		
神経内科		下山		足立芳樹			
外科	徳島		目次			足立洋心	
	窪内						
小児科 発達専門外来	久保田	齋田	齋田	久保田	齋田	齋田	
	(予約)	久保田	(予約)	齋田	(板村)	(予約)	
予防接種	板村	板村	久保田	板村	久保田		
肺がん検診	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)		
睡眠時無呼吸外来				呼吸器内科 担当医(予約)			
息切れ外来		呼吸器内科 担当医(予約)					
喘息 アレルギー外来					池田 (予約)		
咳嗽外来					池田 (予約)		
禁煙外来				毎週木曜日 呼吸器内科 担当医(予約)			
アスベスト 外来		小林 (予約)	木村 (予約)	門脇 (予約)			
嚔下障害 外来		下山 (予約)					
神経難病 外来		下山		足立芳樹			
筋ジストロフィー 専門外来				下山 (予約)			
セカンド オペニオン 外来	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)		

診療時間 8:30~17:15 受付時間 8:30~11:30  
 自動再来受付 8:00~11:00

独立行政法人 国立病院機構 **松江医療センター**  
 呼吸器病センター  
 〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号  
 電話 (0852) 21-6131(代)  
 医療連携室直通電話 (0852) 24-7671  
 医療連携室 F A X (0852) 24-7661



小児科発達 専門外来	診療日：毎週月～金曜日 内容と特色：ことばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけなどの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っています。
肺がん検診	診療日：毎週月～金曜日 15:00~16:30 (要予約) 内容と特色：ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。料金5,250円(+喀痰検査で6,300円)
睡眠時無呼吸 外来	診療日：毎週木曜日 14:00~16:00 (要予約) 内容と特色：いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
息切れ外来	診療日：毎週火曜日 13:00~15:00 (要予約) 内容と特色：息切れの診断と治療を行います。
喘息 アレルギー外来	診療日：毎週金曜日 9:00~12:00 (要予約) 内容と特色：成人気管支喘息、花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
慢性咳嗽外来	診療日：毎週金曜日 9:00~12:00 (要予約) 内容と特色：3週間以上長引く咳(せき)や喉の異常感でお悩みの方。
禁煙外来	診療日：毎週木曜日 10:00~12:00 (要予約) 内容と特色：禁煙を希望される方の検査、診断と相談に応じます。
アスベスト外来	診療日：毎週火・水・木曜日 8:30~11:00 (要予約) 内容と特色：石綿(アスベスト)曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
嚔下障害外来	診療日：毎週火曜日 8:30~ 嚔下障害外来 (要予約)
神経難病外来	診療日：毎週火・木曜日 8:30~ 神経難病外来
筋ジストロフィー 専門外来	診療日：毎週木曜日(予約=指導室まで) 8:30~ 内容と特色：筋ジス病棟医が診療に当たります。診断から在宅ケアのための医療や介護・福祉サービスの紹介など専門的、総合的外来です。在宅患者に必要な定期的精査短期入院(筋ジスドック)も受け付けています。
セカンド オペニオン 外来	診療日：(完全予約制) 紹介状が必要です。 内容と特色：呼吸器・呼吸器外科・神経内科・小児科(筋ジス)の専門医(医長)が担当いたします。